

会 議 録

会 議 名	平成29年度第1回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会	
日 時	平成29年5月24日（水） 午後2時00分～4時40分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 801会議室	
出席者氏名	委 員	井上仁会長、中込順子副会長、青木訓行委員、荒井容子委員、石田健太郎委員、岡崎理香委員、後藤高浩委員、小林千里委員、鈴木紀幸委員、立石晴美委員、田中伸幸委員、中嶋美和委員、廣元洵委員、宮崎豊彦委員（会長、副会長、以下五十音順）
	関連所管	富山大横保健福祉センター館長
	事務局	豊田子ども家庭部長、中正子どものしあわせ課長、久間保育対策課長、澤田保育幼稚園課長、武田子育て支援課長、辻井子ども家庭支援センター館長、大澤課長補佐、小林課長補佐、中山課長補佐、溝呂木課長補佐、後藤主査、田中主査、下谷主査 他
欠席者氏名	内野彰裕委員、塩澤伸久委員、辰田雄一委員、百瀬初雄委員	
議 題	報 告	1. 保育施設・学童保育所の受け入れ状況について 2. 子ども・子育て支援事業計画の推進状況について
	議 題	第3次子ども育成計画の点検・評価報告書について
	その他	まちなか交流・活動拠点 kikki+（キッキプラス）について
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	0名	
配付資料名	別紙のとおり	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	平成30年1月31日 小林千里	

配付資料

- 保育施設・学童保育所の受け入れ状況について
- 子ども・子育て支援事業計画推進状況

別冊

- 第3次子ども育成計画の点検・評価報告書案

別添

- まちなか交流・活動拠点 kikki+（キッキプラス）パンフレット

【中正子どものしあわせ課長】 それでは、平成 29 年度第一回社会福祉審議会児童福祉専門分科会を開会したいと思います。本日、委員の過半数の方が出席しておりますので開催要件は満たしております。傍聴の方はいらっしゃいません。では、これ以降の進行につきましては、井上会長よろしくお願いたします。

議題 第 3 次子ども育成計画の点検・評価報告書について

報告 2. 子ども・子育て支援事業計画の推進状況について

【井上会長】 それでは、式次第に従っていきたいのですが、報告事項につきましては、議題の方の計画の評価の数字と関わっておりますので、最初に第 3 次子ども育成計画の点検評価報告書の資料がみなさんお手元にあるかと思えますけれども、事務局の方でこちらと事業報告の方を組み入れた形で報告していただいて、委員の方からご質疑いただくという形で進めていきたいと思えますが、よろしいでしょうか。それでは、まず事務局の方から点検評価報告書の内容について説明をお願いします。

【中正子どものしあわせ課長】 別冊の資料「第三次八王子市子ども育成計画ビジョンすくすく八王子点検評価報告書」をもとに、お話をさせていただきます。

(資料「第 3 次子ども育成計画の点検・評価報告書（基本施策 1）」について説明)

【井上会長】 基本施策 1 についてご説明いただきましたが、皆様の方からご意見ありますか。

【宮崎委員】 「子どもの参画推進」で、参加者が 1 名ということになっていますが、1 名しかいなかったのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】 実際にはツアーの参加者自体は、何名かいらっしゃいましたが、そのうち未成年の参加者が 1 名だったということです。若い世代の方もいらっしゃいましたが、募集はしたけれども集まらなかったという状況でした。

【井上会長】 1 名ということについてセーフとするかは難しいところですね。呼びかけはどのようにされたのですか。

【中正子どものしあわせ課長】 市報に掲載しまして、そこで参加者を募ったほか、広聴課の方に市政に参加してみたいとご希望いただいている方の中からピックアップして声をかけたと聞いております。ただ、日が合わなかったということもあったようです。

【井上会長】 分かりました、ありがとうございます。他に委員の方ご意見ありますかでしょうか。

【小林委員】 今後も継続されるのですか。1回だけですか。

【中正子どものしあわせ課長】 今回郷土資料館に関しましては、ここで一度基本構想や基本計画をまとめるということですので、郷土資料館に関してはやらないと思いますけれども、広聴課としては今後もこうした子どもの意見を聞けるような見学会のようなものやってみたくておられますので、それに相応しい事業があれば積極的にやっていきたいと思えます。

【井上会長】 今、100周年フォーラムが動いていて、子ども参画を図っていくと聞いていますが、これは来年度評価のことになります、実態は進んでいるのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】 八王子 100周年の記念事業としまして、キックオフのフォーラムは2月に既に終わっております。今後また7月から11月くらいにかけて、8つのフォーラムそれはテーマ別になっておりますけれども、手始めが健康福祉フォーラムを7月2日に開催する予定でございます。それを皮切りに、スポーツであるとか、生涯学習であるとか、安心安全といったテーマ別に8つのフォーラムを開催することになっておりまして、その後来年2月に子ども未来フォーラムとして、子ども家庭部が主催するクロージングのフォーラムがある予定です。私たちのフォーラムも今後開催される8つのフォーラムも、子どもの参加ということで中学生が主ですけれども子どもたちに参加していただいて意見をまとめ発表していただくという予定で進めているところでございます。

【井上会長】 この辺りは、子ども委員会の設置のところとの兼ね合いで、子どもにやさしいまちづくり部会で検討中で、3月の段階では「早く委員会を立ち上げる」で終わってしましまして、ここまで2か月のタイムラグがあったものですから、子どもミライフォーラムに向けて、子ども会議等動き出すための準備が進んでいるところかと思えます。それについては、昨年度事業の評価ではなく今年度事業になりますので、後で別個でご報告いただくということでよろしいでしょうか。今聞いておきたいことはありますか。

【中嶋委員】 意見発表会や子ども委員会、その他いろいろなものに参加してもらったとき、どのように公募していらっしゃるのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】 今回のフォーラムで言いますと、6月1日の広報はちおうじで2月4日に開催する市民フォーラムで意見を言うていただく子ども委員を募集しますという記事を掲載して、希望した皆さんに参加していただく形にしております。また、児童館の事業については、児童館にいらしている子どもにやってみないかと声をかけて参加者を集めています。

【井上会長】昨年度も公募で小学生から中学生まで、大学生はリーダーとして出ていただきましたが、これは恒久的な仕組みではなく、年度、年度でやっているものですから、子ども委員会という形でできれば恒久的にやっていきたいと思います。今は子どもたちが「来年も出たいね」って言うていただく状況ではないので、それを作りたいということが今後皆さんに協議いただく本年度の大きな課題となります。

それでは、子どもの相談窓口のところですが、八王子は早々と総合相談窓口などいろいろ動き出している中で、ワーカーの配置も含めて子どもたちにも周知してどこでも相談していいんだよといった体制というものが需要だと思うので、その辺りを入れ込んでいただきたいと思います。

基本施策1についてはこの辺でよろしいでしょうか。続きまして基本施策2についてお願いします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策2）」について説明）

【井上会長】ここについて何かご意見はありますか。

【立石委員】子どもの居場所のところですけども、プレーパークという名称が出てきていて、八王子ならではのそういった居場所がないと子どもたちの意見がこの前の会議でも出ていましたが、ツリーライミングなどのイベントだと親が連れていける人は行けるけれども行けない人もいます。もっと身近な環境の中で子どもの居場所を作っていければいいなと思っている中では、子どもの居場所については拡大をしていってほしいと思います。

【井上会長】去年子ども委員会で子どもたちからも「自由に遊べる公園がほしい。市長さんはいっぱいあると言ったけれど私たちは遊べない。」といった意見が出ていました。私たちも同じような意見でしてプレーパークと定義しているものは子どもが自由に遊べる公園という形をお願いしているわけですから、公園面積が広がっていくことはいいことだと思いますが、子どもの遊びを制限する公園という形になってしまっているの、この計画からすると、子どもが自由に使えて居場所になることが大事で、今はそこまでいっていません。それと、安心安全というキーワードがもう一つ去年子どもたちから提供されていて、「自由に遊べるけど怖い。」ということもあったので、そこはご留意いただいて、評価のところは難しいのですが、子ども家庭部としてはこういう公園づくりを目指すというものが無いと計画に載っていないのかなと思います。子どものための事業が増えてきたことは良いことだと思うのですが、その点をお願いしたいと思います。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策3）」について説明）

【井上会長】ここは質の向上ということで、研修体制や質のミニマムな基準がガイドラインですから、八王子の保育と言えらるものがないと、国ベース、都ベースに留まってしまいますので、できれば早めに踏み込んでほしいと思います。他の自治体では、こういったガイドラインを設けたことで公私関係なく研修が始まっているというところもあります。23区ですとプラス3万円、プラス8万円の住宅費がでています。人材の確保と質の確保が一体化しているところに人は集まってくるため、早く八王子保育の形を作っていただければと思います。認可部会の石田先生にお願いするところかと思いますがよろしくお願ひします。

【石田委員】はい。昨年、公立保育園の方のガイドラインを澤田課長にお願いして取りまとめいただいている段階かと思ひます。これについてご報告お願ひします。

【澤田保育幼稚園課長】現在、公立保育園のガイドラインの取りまとめをする段階までまいりました。なるべく早い段階で、今度保育所保育指針が新しく改訂されたということで、そちらとの整合性をとっていこうと連携を始めようとしているところでございます。

【石田委員】ありがとうございます。それに加えて、保育ガイドラインは教育の部分が含まれていまして認可部会の権限の範囲として幼稚園、文科行政の部分まで入ってしまってよろしいものなのかどうか、と思っております。この点について、きちんと検討することが可能かどうか、可能だということであればやらせていただく形になるかと思ひます。

【井上会長】国ベースの保育指針が4月に大幅改定されて出ております。それに合わせてということになるかと思ひます。福祉の方で言いますと、保育における相談体制の確立ということがおそらく八王子も課題として残っていますよね。その辺りが保育指針改定で前に強く出されたので、八王子ガイドラインを作るときに子家センとかネウボラとの連携を含めて保育の役割を明確にしていって中で受け皿としての保育の在り様、相談体制という辺りについてご検討いただくということと、八王子は公立の幼稚園はないかと思ひるので当面は保育園でやっていただいて、幼児教育と就学支援シートとは関わりがあるので、教育機関として期待される八王子保育はどういった役割を果たしていくのか、保育に入ってくる教育ということでやる分には良いかと思ひます。まるっきり教育ということになると保育とかけ離れてしまうので、それはバランスかと思ひのですが、八王子ガイドラインの幼保連携の中で要望を出す分には可能なのではないでしょうか。

他よろしいでしょうか。それでは次のページお願ひします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策4）」について説明）

【井上会長】はい。これに関して何かございますか。

一体型事業が多いところですが、学童保育と放課後子ども教室で言うと一年生から六年生までの受け入れについて、5日型を増やさないと学童保育はパンクしていくと言われる中で、この数字はどうなのでしょう。60校のうち20校に満たないということで、学童が一年生から六年生まで中々届かない現状で言うと、もう少しここを進めていかないといけないのではないのでしょうか。若者就労支援のところも、確か委託先を変えたのでしたっけ。就労支援事業者を変えて数字が伸びていますよね。福祉のあり方も含めて連続支援のあり方を是非ご検討ください。

【岡崎委員】施策13の評価ですけれども、28年度の実績数値140件とありますが、これは進路決定者数なのですか。その上の方に進路決定者数51人という表記があるのですが、それとの関係はどうなのでしょう。あと目標値は何件と設定しているのですか。

【中正子どものしあわせ課長】目標値については右側にある40という数字が目標値になります。内容については、確認して後ほど回答いたします。

【石田委員】学童保育所と放課後子ども教室の拡充が着々と進んでいるところですが、保幼小連携の中でも重要な役割を果たしているかと思います。保幼小連携の日に参加されている学童もあるようですけれども、参加されていないところもあるかと思います。連携をして就学に結び付けることで保護者の支援ができるということがございますので、学童、放課後子ども教室にも声をかけるようにして取り組んでいただくことが必要かと思います。

【井上会長】今、NPO型と学童中心型といくつかの放課後子ども教室の運営の仕方が拡充された中で、学童保育が担っていただけたところもでてきています。割合はどのくらいなのでしょう。

【中正子どものしあわせ課長】これまで地域の方をお願いをしていたところも週5日やるとなると地域の方だけでは担いにくいことから、今学童保育所を運営されている事業者の方に放課後もお願いできないか担当部署の方で進めているところですが、まださほど増えてはいません。

【井上会長】6年生までの受け入れはまだまだ長い道のりで、いろいろな課題を抱えていますので、市の方で総合的に放課後の子どもの生活の安心安全という視点で見いただければと思います。

【中正子どものしあわせ課長】先ほどの若者サポートステーションの進路決定者数のところですが、担当からご説明させていただきます。

【事務局】 はい。先ほどご質問ありました若者サポートステーションの進路決定者数 140 件と進路決定者 51 名の数の関係ですが、140 件の方は若者サポートステーションとしての進路決定者となっています。若者サポートステーションは厚労省の委託事業になっておりますが、委託の内容はビジネスマナーなどの座学ですとか相談業務などで、なかなかそれだけでは進路に結び付かないという問題がありました。本市では若年無業者就労促進事業という事業を実施しております、これは現在 44 社ほどの事業者の協力を得て、そこで社会的体験や職場体験などの実習の機会を与えるということを主な目的としております。140 件のうちの 51 名がこの本市独自の事業による支援を受けて進路決定に結び付いた数になっております。

【井上会長】 これは評価のところを 2 段にさせていただいて、市独自のところに入れていた数値というものが、市として大事になってくるということですよ。

【事務局】 この事業の効果は年々上がっております。市の取組として充実、発展させていくという視点では、評価指標にしていくことが大事かと考えます。

【井上会長】 この事業は何年からスタートしたのですか。

【事務局】 こちらの若年無業者就労促進事業につきましては、26 年からのスタートとなっております。

【井上会長】 26 年からの数値を再掲という形で括弧書きで載せていただければ、八王子としての事業評価が出てくるんですよ。

【事務局】 はい。

【井上会長】 そうでしたら、そこはそうしていただければと思います。今 140 件まで増えている、29・30 年度を見ると 40 件、50 件になっているのですが、やはり事業者を変更した影響が大きいのでしょうか。

【事務局】 そうですね。サポステが設置された 25 年度になかなか成果が上げられなかったというところで、26 年から事業者を変更して 25 年度に見えてきた課題を事業化しました。その時点ではここまで成果が上がってくることを見込めなかったため、当初設定した目標値は低くなっております。

【井上会長】 そうすると、このまま 40 件、50 件という数値を残しておくのは不適切かと思っておりますので、現事業者の数字をあげていただいたうえで、先ほどの事業と合わせて 29・30 年度は見直した方が良いでしょう。

【中正子どものしあわせ課長】 どのような形にするかは検討させていただきます。

【井上会長】 これだけの若者を支えているということは書いていただいて、行政と民間企業との連携のところでは非常に高い評価になるかと思imasので、その数字を明確にしておくことが良いかと思imas。市民から見ても、八王子の企業がこれだけ協力してくれていることって大事かと思imasので、ここは是非しっかり書いていただければと思imas。他よろしいですか。では、次の項目お願imasします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策5）」について説明）

【井上会長】 通学路の途中の問題ですとか昨年度もご指摘いただいていて、ハード面だけで言imasすと、「暗い」、「やぶがボサボサの状態に放置されていて怖い」、一部公園も含まれているというお話もいただいておりましたので、その辺りも含めて総合評価のところ、各学校で安全マークでしたか作られていますよね、そういったものを点検してみるということも必要のかなと思imas。他なければ次の施策お願imasします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策6）」について説明）

では、保育所待機児童の数につきまして、担当の久間課長から説明させていただきます。

報告 1. 保育施設・学童保育所の受け入れ状況について

【久間保育対策課長】 それでは配布資料をご覧ください。（資料1「保育施設及び学童保育所の受け入れ状況について」保育施設部分説明）

【事務局】（資料1「保育施設及び学童保育所の受け入れ状況について」学童保育所部分説明）

【井上会長】 今八王子の子ども施策をどう見るかと言imasすと、就学前児童数が右肩下がりののに保育はどんどん上がっていて、下がっていくことは自治体として危機でして、消滅可能性都市に陥っているわけですよね。グラフの就学前児童数の推移の数値を上げていかないと結局子育て支援が上手くいっていることにならないのですが、厳しいですよね。将来人口統計は出ていますか。

【中正子どものしあわせ課長】 国調人口について速報値は公表されましたが、確定値はまだ出ていません。

【井上会長】 そこで出た数値をどのように評価をして、どうやって子ども施策を見直していくのか、グラフの推移を見ると八王子が選ばれていないということになってしまうので、その数値をどこかで分析していただいて、ご報告いただかないといけないのかなと思imas。す。

【久間保育対策課長】実際には、八王子に転入してくる就学前児童は減ってはいません。昨年度も400人以上転入してきたのですが、生まれてくる子どもの数が減少した結果です。お母さんになる世代の人口が減ってしまっていることが影響しています。

【井上会長】若い人たちの三分の一は結婚しないんですね。そして結婚した人のうち、三分の一は子どもを産みませんので。このままいくと、という話になると、先ほどの人口推計と子ども施策の話になります。待機児童の問題だけでなく、その部分についても見ていかなければならないので、今回の計画について効果を上げていないという評価をせざるを得なくなってきました。下がり方が大きくありませんか。特に28年度から29年度の未就学児童の減少率の高さが大きくなっていませんか。その辺りご検討いただいて子ども施策をどうしていくのか考えていかなければならないと思います。他何かございますか。

【石田委員】八王子は市域がとても広いので、逆に保育所で空いている部分もあるということで、他市の取組でバスを使って誘導するといったこともされているようですが、そういった施策を取り入れていく予定はありますか。

【井上会長】森の幼稚園ですとか森の保育園型の保育ですね。中心街から外の空いている所に保育園バスで行く、自然環境の良い所で子どもを育てたいといった方々には良いですよ。八王子はやりやすそうです。

【久間保育対策課長】待機になっている児童はほぼ1歳児なのでバスでの送迎には無理があります。上の年齢の児童は園の受け入れに余裕がありますから希望の園に通えています。

【井上会長】1歳で働くお母さんたちが復帰する数がこれだけ増えてくるとなると、先ほどの企業内保育の検証制度もありますが、そういうところを促進しない限りは吸い込めないんじゃないですか。検証制度を高めていかないと企業もリスクを抱えたくないというところも増えてきているので、企業内保育所や地域開放型のところに働きかけていかなければならないですよ。働きたいのに働けないとなると逃げてしまう。

例えば「子育てと仕事が両立できる雇用環境の推進」のところで、協力企業を目立つ方法で表彰するなどして推進していかないと1歳児の待機を解消できません。1歳児のためだけに施設を増やすこともできないし、ハードばかりそろえても将来余ってしまいます。次の計画でも考えていかなければなりません、一回分析していただければと思います。

【久間保育対策課長】保育制度自体に引きずられる部分もあります。以前は1・2歳児の保育ニーズが高くなかったため当時のニーズに合わせ定員を階段状にしてきました。また、保育士の配置基準が1歳児5人に対して保育士1人、2歳については6人に対して1人の

ため、保育園運営にあたり、1歳児の定員を15名、2歳児の定員を18名とする傾向があります。その3名の差が待機児童を生む要因でもあります。1歳の待機児童解消のため保育施設をつくり、1歳の需要が埋まると、今度は2歳の定員3人分が余ることになります。

【井上会長】これだけ母親が1歳児を抱えて働くということになると、八王子の魅力としては、こういった人たちを止めないと。

【久間保育対策課長】待機児童を減らすことで転入も増えると考えています。八王子には既に待機児童がない地域もあるため、その周知を図って人を呼び込めればとも思うのですが、効果の検証は難しいです。

【井上会長】交通利便性の問題ですとかもありますしね。どうしても交通利便性の良い所に集まってきますから、京王線沿線ですとか。

【久間保育対策課長】一方、川口地区で待機児童が増えたのは、戸建住宅が増えたことによるようです。

【井上会長】総合的な視点も必要ですね。1歳児対策は、若年層にとってみれば子ができるかできないか、選択するとき大きいと思います。

【立石委員】簡単なことではないのですが、例えば1歳児、2歳児ってよく言うのですが、3月31日生まれの子も、4月2日の子も一緒なんですけれども、1歳児、2歳児に分けられてしまいます。特に小さい子は発達が全然違うのに、歩き始めた1歳児と、もう走り回っている1歳児もいて2歳児と遊べる子もいるのに、そういう風に分けてしまうことは子どもにとってもどうなのだろうと思ってしまいます。1歳、1歳半、2歳などフレキシブルにクラス分けをできれば良いのかと思います。

【久間保育対策課長】東京都の基準では、0歳児室と1歳児室を必ず分けて作らなければいけません。そのため、1歳であれば1歳児室で保育しなければルール違反となってしまいます。

【井上会長】混合保育はいけないのですね。

【久間保育対策課長】はい。国基準は違って、この前長野の保育園に視察に行ったのですが、0歳から2歳まで同じ部屋での保育でした。

【立石委員】異年齢が一緒になった方が良いと思います。

【井上会長】ただ、国基準だと配置がマイナスになりますよね。

【立石委員】お母さんたちも3月生まれの子をいつ預けるか、4月生まれの子をいつ預け

るか、いつ復帰するかすごく困るんですね。

【久間保育対策課長】定員に余裕があった頃の基準をそのまま引きずってきてしまっています。かといって、簡単に緩めるわけにもいかない状況です。

【井上会長】働ける環境づくりに欠かせない施策ですから、どういう工夫をして打ち出すかですが、やはり八王子スタイルをつくらないと厳しいですね。1歳の問題は大きいと思います。是非またご提言いただければと思います。

【岡崎委員】施策20の子育て応援企業とか奨励金とか、そういったところに目を向けて、1歳児の待機が増えるのはお母さんが育休明けに復職しようとして大量に出るといふことかと思うのですが、もう一年安心して休んで子育てできるように、そして復帰するときも企業が復帰できる環境を整えさせるように行政が企業に踏み込んで何かするということができないのでしょうか。例えば、若者が市内企業に就職したら10万円交付するという制度がありますが、お母さんたちがあと1年安心して休めるように企業が方策を取ってくれたら奨励金のようなものを与えるとか、そういったことに力を入れてもらいたいと思いました。あと、指標のナビ掲載企業に就職した若者への奨励金交付のところで数値が出ていないのですが、出さない理由はあるのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】ここでは、やる・やらないが元々の指標で、未実施だったものをやるようになったので実施という記載になっております。認定件数につきましては、実行のところに78件と記載しております。

【井上会長】八王子は育児制度の補完という形で現在企業を応援してはいませんよね。顕彰も特にしていませんか。

【中正子どものしあわせ課長】子育て応援企業として登録している企業はホームページで紹介しておりまして、お客様向けにサービスをやっているところもあれば、就業規則を女性が働きやすい子育てしやすいものに設定しているところもあります。ただこれは興味を持った方が情報を取りに来ていただくような仕組みになっております。

【井上会長】子育て支援に協力してくれた企業を大々的に顕彰して、企業PRになるような施策を検討してみてもいいでしょうか。

【武田子育て支援課長】例えば大横保健福祉センターをつくるときに、一般競争入札では金額だけでなく、これまでの建設実績や市への貢献度という枠があり、子育て応援企業には貢献度でアドバンテージを与え、実際に子育て応援企業が落札いたしました。

【井上会長】そういったことをもっと外に発信して行ってほしいと思います。せっかくや

っていても見えなければ効果になりません。それができると良いですね。
他よろしいですか。次お願いします。

報告 2. 子ども・子育て支援事業計画の推進状況について（続き）

議題 第3次子ども育成計画の点検・評価報告書について（続き）

【中正子どものしあわせ課長】（資料「第3次子ども育成計画の点検・評価報告書（基本施策7）」について説明）

【井上会長】ここは先ほどと同じように実施となっている部分について数字に落としていただいて、あと、八王子版ネウボラの評価は大事で面接率が64%（概算値）ですよ。64%という数字はそんなに高い数字ではないですよ、そういったものも含めて表にもそういった数字を入れていただきたいと思います。就学前人口は右肩下がりの中でも八王子は安心して子育てできるということは一つの大きな柱となりますので、ここには分かりやすい数字を入れていただきたいと思います。

【後藤委員】今会長がおっしゃった64%という数字に関連するかと思うのですが、先日妻の妊婦面談に同席するため大横保健福祉センターに行ってきました。保健師の方といろいろお話をしたのですが、保健師が足りなくてとても手が回らなくなっちゃいますというようなことを言っていたので、人の問題がとても大きいと思います。南口総合事務所に妻が母子手帳を取りに行ったときに妊婦面談等の相談をしたら、どなたもそのことをご存知なかった、部署が違うのでという対応をされてしまったので、庁内で市民とファーストタッチするところとの情報の共有化はとても大事だと思っております。その2点をお願いしたいと思っています。

【井上会長】それは是非改善していただきたいと思います。あと、保健師不足は妊婦面談の影響なのでしょうか。実施率64%の理由が保健師不足なのでしょうか。

【富山大横保健福祉センター館長】妊婦面談の実施率は12月までの暫定値でして、3月末で締めましたところ66.1%となっています。面談の人員体制ですが十分100%対応できる人数を確保しておりますので、文書や電話や訪問などで勸奨した結果、面談できた方がこのくらいでしたということであり、人数が少ないから面談ができないということは決してございません。

【井上会長】ということは虐待の実態でいうと、あえて面談しない方々の層がリスクの高いご家庭が残ることになりますよね。そこに重複的に面談をかけていくということ

を保健福祉センターとしてやられているかと思いますが、その辺りいかがなのでしょう。

【富山大横保健福祉センター館長】面談を行った方の中の継続要支援率が15%程度だったかと思うのですが、そういった方につきましては妊娠中又は新生児期に早期に確認したり、必要な支援を継続したりしている状況でございます。面談にお越しいただけなかった方につきましても、お電話ですとか赤ちゃん訪問の際の健診等で速やかに状況は把握させていただくということで後追いはさせていただいていますし、赤ちゃん訪問につきましては、昨年度95.2%だった実績が98.4%、こちらも全数は把握しております。

事務所との連携については貴重なご意見いただきまして、本当に失礼なことをしてしまったと思っております。南口総合事務所と市民課には出向きまして、窓口の方と勉強していくことを確認し、お渡しする資料がたくさんあるため、妊婦面談のチラシを資料の一番前にお渡しするようにしたところ、その甲斐もあってか4月、5月と面談数が増えているところです。貴重なご意見、どうもありがとうございました。

【井上会長】他よろしいでしょうか。それでは次お願いします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「第3次子ども育成計画の点検・評価報告書（基本施策8）」について説明）

【井上会長】養育協力家庭の数が14家庭から7家庭に減っていますが、何が原因なのでしょう。

【辻井子ども家庭支援センター館長】預かる方も高齢になってきていることが考えられます。今現在2家庭ほど増えて9家庭になっていますが、更に増やせるよう働きかけを行っております。

【井上会長】赤ちゃんふらつとや思いやり駐車スペースは目標値を大幅に超えていて、かなりご協力いただいているようです。よろしいでしょうか。それでは次の項目をお願いします。

【中正子どものしあわせ課長】（同報告書（基本施策9）」について説明）

【井上会長】子育てひろばコンサルジュについては、市独自の研修を設けないとなかなか難しいでしょう。施策全般で八王子の資源を紹介できるように、お考えください。それでは次のところをお願いします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策10）」について説明）

【井上会長】父親教室の父親の参加率は、ワークライフバランスという言葉が一時期より落ち着いてしまいましたけれど。

【中正子どものしあわせ課長】今回ここに掲載されているパパママ支援ワークショップについては、昨年に比べ参加人数が少し減っています。

【井上会長】ブームのときは皆さん参加しますが継続するのは難しいですね。では続いてお願いします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策1 1）」について説明）

【井上会長】児童館ひろばと一般のひろばのところで、拠点の考え方で違ってあるのですか。八王子はあまり明確に子育て支援拠点として位置付けていませんよね。その中で、ネットワーク化というと難しいので、施策としてはしっかり考えていって、児童館ですとか教育センターあたりがそういった部分を担わないと簡単にはいかないと思いますので、ご検討いただければと思います。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策1 2）」について説明）

【井上会長】フェイスブックを見ていますが、このところイベントの情報ばかりなので、保育園でのエピソードやひろばでのエピソード、こんな面白い保育園がありますよとか、プロモーションとして発信するときには市民の皆さんに読んでもらうか、良いものを持っているので是非お願いしたいなと思います。

【岡崎委員】それに関連して、電子母子手帳の実現にはまだまだでしょうけれども、母子手帳をもらいに来た人にその場でフェイスブックに登録してもらおうとか、そういうところまでは考えてはいないのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】メールマガジンのお知らせはお渡ししているのですが、その場で登録してくださいというところまでは行っていません。

【岡崎委員】重要なお知らせをフェイスブックで発信しているので、是非登録してくださいと一言伝えるだけでも登録しやすいかと思います。

【中正子どものしあわせ課長】先日の広報でもメールマガジンの紹介記事とQRコードを載せたところなのですが、より効果的な方法について考えていきたいと思います。

【井上会長】是非お願いします。それでは次お願いします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策1 3）」について説明）

【井上会長】ボランティアの組織化とか、ボランティア団体の育成は大事なことだと思いますし、この中にはありませんが大学生が行っている学習塾とか計画の中で見える化していくことが必要かもしれませんね。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策1 4）」について説明）

【井上会長】実施となっている部分を実施回数と参加人数など数字におきかえて分かりやすくしていただきたいと思います。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策15）」について説明）

【井上会長】これについてはよろしいでしょうか。

【中嶋委員】障害の早期発見・早期支援事業について、早期に発見することも大事なのですけれども、発見することで親と子の関係性が崩れていくようなことが考えられるので、そういった問題は親だけでなく親戚中巻き込んだ問題にも発展しますし、発見したときにしっかりそういった部分のサポートをしていただきたいと思います。

【井上会長】障害者認定は難しいですね。親御さんがどれほど厳しい目に合うのか、発達支援センターやデイの方々と連携してフォローアップをどうするのかというところですね。

【中嶋委員】なかなか島田療育センターで療育の時間の中でそういった精神的なケアは難しいところがあると思うんですね。そういったフォローができる仕組みがないと、発見しても結局親の方を追いつめてしまったら、何も良いことが生まれませんと思います。

【富山大横保健福祉センター館長】おっしゃる通りだと思いますので、その辺の親御さんのお気持ちですとか、お子さんも変わっていきますし、伴走型というところでネウボラとしても妊娠中から信頼関係を築いていった担当者が、障害がもしあったとしても寄り添いますし、保育園、幼稚園、医療機関、ひろばが上手く連携できるようにしていきたいと考えております。

【中嶋委員】絶望感を感じたりしながら、親の精神的な回復も段階を経て時間のかかる問題なので、よろしくお願いします。

【井上会長】すべて保護者に負担がいくという今の日本の風潮があります。障害を持ったお子さんの面倒は親が見なければいけないというところから離れていけるように、公立保育園ですとかインクルーシブ保育に取り組みながら進めていかないと、介護と一緒に、ずっと付き添っていないとあなたの責任ですよと言われてしまうところがあるので、そういったところをネウボラでしっかり聞いてあげて、そこから先の制度化はどこかで進めないと難しいかと思います。啓発活動も一体的にやらないと難しいですね。障害に対する偏見はまた段々と強くなっている気がします。発達障害という言葉も取り上げられてきていますし、行政には是非ご検討いただきたいと思います。

【豊田子ども家庭部長】今年からガイドブックを作り、教育委員会と連携して子どものう

ちから障害とはどういうものなのか教えていきます。八王子は「障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例」の中で差別禁止ということをやっていますので、小さいうちからの障害者教育というところにも力を入れていきたいと思っております。

【井上会長】是非発信していただきたいと思います。障害児支援が難しくなったのは、児童福祉法から離れて、ほとんどのサービスが障害者総合支援法の方にいってしまい、こういうところでもなかなか議論にならないので、これからもきちんとやっていかなければなりません。それでは次お願いします。

【中正子どものしあわせ課長】（資料「同報告書（基本施策16）」について説明）

【井上会長】児童館の学習支援はひとり親家庭の子だけが対象なのでしょうか。

【武田子育て支援課長】そうです。

【井上会長】生活保護の方の学習支援事業との一体化はできないのでしょうか。

【武田子育て支援課長】一体化はしています。生活保護の学習支援の方にひとり親の子どもを入れています。家庭教師派遣型はひとり親だけです。生活保護の方の訪問型は29年度からスタートしています。

【井上会長】行政側でラベリングすることは子ども自身のラベリングにもなりますし、できるだけ避けられるような工夫をしていただきたいと思います。特にひとり親のお子さんは配慮してあげる必要があります。是非お願いします。

【岡崎委員】49のA評価ですが、メールマガジンを発行したからA評価ということですが、けれども、評判というのはどうなのでしょう。

【武田子育て支援課長】発行だけでA評価ということではなく、支援員の相談件数も大幅に伸びています。28年度、年間相談者数が1,803名となっているのですけれども、前年は1,332名でしたので、1.35倍ほど増えています。相談件数においても、2,500件ほどだったものが3,500件ほどに伸びています。また、ひとり親のメールマガジンを7月から始めました。主に手続きの内容とコラムのような形で、去年についてはひとり親の支援制度について、今年はお金のことに関して書いています。登録者数は今600名ほどです。ひとり親の手当てをもらっている方が4,000名ほどおりますので、その方たちに登録してもらえるように今考えています。

【岡崎委員】メールマガジンを発行することによって相談件数が増えたのですか。

【武田子育て支援課長】それもあるのですが、中核市になったことで、施策46の母子父子自立センター事業を今まで東京都がやっていたので、会場がみんな四谷とかだったので

すが、八王子市内でできるようになり、母子父子自立支援員が積極的に現場に出向きその場で相談予約を受け付けるなどすることで件数が伸びました。

【井上会長】そういったことを書いていただければと思います。

【岡崎委員】もう一点。先ほど会長の方からもコメントがありましたが、ひとり親家庭に対する学習支援の実施は、ないよりはあった方が良くと思うのですが、支援を受けている子は自分がひとり親家庭だからサービスを受けられるんだということが分かってしまうのでしょうか。

【武田子育て支援課長】わかってしまいます。家庭教師を派遣するにあたって、親子と市の職員と委託業者で面談をします。そこで苦手教科や部活、将来何になりたいかなどお子さんの話を聞きます。その時にひとり親だからこの制度があるということは分からないかもしれませんが、ひとり親だからお母さんと一緒に面談に来ているということは分かりません。

【岡崎委員】利用者数は何名ですか。競争率は高いのでしょうか。

【武田子育て支援課長】去年は 30 名でした。今年は今のところ 20 名です。これからまた声掛けをしていきます。

【井上会長】ひとり親家庭の数は。

【武田子育て支援課長】4,000 名くらいなのですが、対象となるのは児童扶養手当全部支給という所得要件があります。ひとり親家庭の数はほぼ横ばいですが、所得要件に該当する人は減ってきています。

【井上会長】あとよろしいでしょうか。それでは次お願いします。

【中正子どものしあわせ課長】(資料「同報告書(基本施策17)」について説明)

【井上会長】フードバンクとの連携については、この中に新しい事業として入れ込まないのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】それは今年度の事業としてネットワーク化などについて入れていくことになるかと思います。フードバンクに委託し、まだこれから増加する見込みですけれども市内6か所の子ども食堂、それと無料塾をやっている団体を集めて横のつながりをつくっていこうということで、ネットワークづくり、ホームページで活動の紹介をしたり、開催日をお知らせしたりしていく予定です。また事業の進捗が見られたところでこの分科会でもご報告いたします。

【井上会長】他よろしいでしょうか。あとは全体で子ども育成計画の28年度の進捗について

て何かございますか。よろしいですか。そうしましたら、これについてはここまでということになります。

【中正子どものしあわせ課長】そうしましたら、今日いただいたご意見を含めまして、次回皆さんにお諮りしたいと思います。よろしいでしょうか。

【井上会長】はい。それでは29年度第1回児童福祉専門分科会を終了します。